

令和4年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495400606	事業の開始年月日	令和1年5月1日
		指定年月日	令和1年5月1日
法人名	ミモザ株式会社		
事業所名	ミモザ川崎稲田堤		
所在地	(〒214-0008) 神奈川県川崎市多摩区菅北浦3丁目3番18号		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	27名
		ユニット数	3ユニット
自己評価作成日	令和5年1月31日	評価結果 市町村受理日	令和5年3月20日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	<a href="mailto:k-inadazutsumi@mimoza-care">k-inadazutsumi@mimoza-care</a>
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念として掲げている、その人らしさを大切に、また、その人へ寄り添う支援を実施する。そうすることで、認知症である前にいち人間として向き合え、その人の認知症を理解し、その人らしい支援が可能となる。また、食事を大切とすることで、生きていく喜びを感じて頂き、共に共感し笑顔で生活できる環境づくりを行っていく。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和5年2月2日	評価機関 評価決定日	令和5年3月2日

新型コロナウイルス感染防止の観点から書類調査方式とする

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<b>【事業所の優れている点】</b> ◇内部研修等による職員の育成 事業所内部研修として毎月行う30分研修の年間計画をたて、認知症の理解、感染症や食中毒予防、プライバシー保護、接遇、身体拘束および虐待防止、非常時対応、倫理及び法令遵守等について、マニュアルの読み合わせや実例を基に学び、日常ケアへの反映に努めている。本社研修や外部研修について情報提供し、職員の積極的な参加を勧めている。 ◇コロナ禍における家族の意見・要望の把握と情報の提供 ・電話連絡やコロナ対応制限下ではあるが家族の面会時に得た要望に可能な限り対応している。利用者の生活状況の写真を含めて毎月家族に「生活報告書」を郵送報告している。ミモザ通信を毎月発行し、利用者の楽しそうな活動の姿、パッチワークの作品、様々な行事(クリスマス会等)を写真とコメントで紹介し、家族に郵送している。 <b>【事業所が工夫している点】</b> ◇利用者の食の好みの把握と対応 日常会話の中で利用者の食の好みを把握し、旬の食材に配慮しながら調達して調理し提供している。誕生日やおやつレクの際に利用者の好きな物を準備し、楽しんでもらっている。
---

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	ミモザ川崎稲田堤
ユニット名	ハナミズキ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		○	2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
		○	3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人、施設の理念に基づき、毎月30分研修を施設内で実施している。社内総合研修主催の研修への参加と、年1回、全社内での事例ケア発表会を実施。他施設の取り組みや事例を確認でき、視野を広げる良い機会となっている。	事業所の理念は「高齢者の幸せな暮らしに貢献する。その人らしさを大切に支援する。笑顔、思いやりを大切にチームケアをおこなう。」であり、事業所内に掲示し、日々のケアへの反映に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により、感染症対策の継続のため、交流は避け、行事等は実施していない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会に加入しているが、コロナ禍で地域行事等は自粛中であり参加の機会はない。</li> <li>・コロナ禍以前は併設の地域交流室で喫茶ミモザや認知症サポーター養成講座を開催した。</li> </ul>	・コロナ終息後に喫茶ミモザや認知症サポーター養成講座の再開を念頭におき、その準備を進めることが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍により、実施できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため、介護保険課、地域包括、自治体、民生委員、ご家族代表の方との会議は実施せず、ご利用者の状況、行事、事故報告、今後の予定の定時に関しては、書面にて情報共有を実施中。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議は、自治会長、民生委員、市職員や地域包括支援センターの職員をメンバーとしている。</li> <li>・コロナ対応として現在は事業所の運営状況を書面報告している。</li> </ul>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	GH連絡会にて他ホームの管理者や職員と現在コロナ禍の為、リモートにて交流。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区の高齢・障害課とは、家族に代わり認定更新の手続きを行う等、密に連携している。</li> <li>・コロナ対応としてグループホーム連絡会にWeb方式で参加して意見交換している。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	職場30分研修を2か月に1度実施し、職員の身体拘束への認識と、情報共有を行っている。身体拘束ゼロを継続し、ご入居者に優しい環境作りを実施していく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「身体拘束廃止」の指針を策定して、3か月ごとに「身体拘束適正化委員会」を開催し指針を徹底している。</li> <li>・職員は、職場30分研修や、毎月の虐待・身体拘束チェック表、自己点検シートによる点検で身体拘束をしないケアを実践している。</li> </ul>	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場30分研修の一つのテーマとして取り入れ、職員に周知徹底している。日頃からの入居者、ご家族、職員のストレスフリーに努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内部研修で年2回「身体拘束および虐待防止」について職員全員で学び、振り返り、虐待に相当する言動がないように日々のケアに反映している。</li> <li>・ストレスを減らすため、コミュニケーションを大切にしている。</li> </ul>	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	書物などで知識を得て、ご家族より相談を受けた場合、制度を利用できる状況にある。研修の機会も設け、日常生活自立支援事業、並びに、成年後見人制度などを学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、書面と入念な説明を設け、理解を得られるようにしている。当日だけでなく、後日随時質問ができるような状況を設け、解約時と同様に努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や毎月の生活状況報告書への返信、半年に一度の家族会の開催（現在コロナ禍にて中止）外部評価によるアンケート、ケアプラン作成時のご利用者及びご家族の意向の聴取、また契約締結時には苦情相談機関の説明も行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で家族の自由な面会は自粛しているが、利用者の日常の生活状況を書面や電話で伝え、意見・要望は書面、電話等を通じて把握している。外部評価時の家族アンケート意見も参考にしている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時スタッフ会議、個別面談、引継ぎの時間を利用し、職員の意見交換の機会を設け、コミュニケーションを図っている。	・職員の意見・提案は、日々の会話や毎月のスタッフ会議・個人面談で把握し運営に反映している。法人の部長も巡回時（毎月）に職員の意見を聞いている。 ・職員提案で、業務日誌が見やすくなり、日中と夜間が一本化できた。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則はいつでも閲覧できるようにしている。職員の希望はできる限り優先した勤務表作成を心掛けている。	・管理者は定期的に職員と面談し、職員の個々の努力や実績、勤務状況、熱意などを把握のうえ評価し給与に反映している。 ・シフト編成の際は職員個人の要望を可能な限り配慮している	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内総合研修所、GH連絡会、協力医療機関等主催の研修の情報を提供し参加を促している。また、エルダー社員制度により、新入社員のOJTを実施。	・本社研修、外部研修の情報を提供して参加を促し、また毎月内部で行う「30分研修」を通して職員育成に努めている。 ・新人職員はエルダー社員から必要な知識やケア対応についてOJTで学び実践している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH連絡会にて他ホームの管理者や職員と現在コロナ禍の為、リモートにて交流。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に他施設や、支援事業者より、アナムネを収集、その後、実際にご本人にお会いし、昔の話などを交えながら共通の話題を探し、不安要素を取り除けるよう配慮行う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前より、コミュニケーションが図れるよう出来る限り、ご同行頂き、モニタリングを実施。困りごとなどの傾聴ができる様、穏やかな対応を心掛ける。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設で出来ること、家族、入居者が望むことを加味し、最善のサービスが提供できるよう検討、説明、話し合い、相談、助言等実施していく。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	GHという施設を最大限に生かし、入居者同士が支えあい、共同で暮らすことの意味を考え、職員間で情報共有し家族への理解も得る。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者と家族との絆を保ちながら、職員が間に介入することで、両方の意見を傾聴しながら、良い関係を築いていく。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	徐々に面会の制限を緩和している状況であるが、まだまだ、以前の様な状況ではない。毎月写真を送付、施設での様子を併せてお伝えしている。リモートは実施していないため、玄関での物品の受け渡しなどで対応している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>入居時のアセスメントや家族からの情報で、馴染みの場所等を把握している。</li> <li>ミモザ通信を毎月発行し、利用者の楽しそうな活動の姿、パッチワークの作品、行事を写真とコメントで紹介し、家族に郵送している。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアで過ごす際は、9人まとまってテーブルを囲うように座って食事をとって頂いている。行事、アクティビティ、誕生会なども全員で行動している。個々に問題がある入居者に関しては、居室変更や転棟なども検討している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の現在の状況を電話や手紙などで、状況の聞き取りを行っている。また、他施設での、困りごとの相談援助や、入院時の面会なども実施している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	決して無理強いせず、希望に添える様、生活環境やこれまでの生きてきた思いなどを考慮した対応を心掛けている。コミュニケーションが図れることにより関係性が良好となり、入居者の把握が可能となる。	・入居前に自宅や病院などを訪問して、本人・家族から暮らし方の意向を聞いている。 ・意思疎通が困難な利用者には、家族からの情報や、入居者の行動、表情等から推測し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントだけに捕らわれず、ご家族とのコミュニケーションの一環として聞き取りを行ったり、前施設に問い合わせることもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に状態の把握を行い、全員が同じことを実施するのではなく、本人に見合った対応を職員間で検討、共有し、穏やかに生活できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	随時サービス担当者会議を実施し、今後の課題と今行うべきサービスの検討、意見交換を他職種を交え実施し、介護計画に反映させている。出来る限り、オリジナリティ溢れた介護計画を作成できるように努めている。	・本人・家族の要望と医師、看護師の意見、モニタリング結果を基にして介護計画の適否を会議で検討している。 ・計画は6か月毎に見直し家族の承認を得ている。状況の変化時には、その都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿ったケアを実施し、チェックシートを用いて、介護計画との比較を行っている。日々の暮らし以外に、気づきや、必要べき項目など個人記録に漏れなく記載し、職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に合わせた対応ができる様、緊急時の対応など、随時ミーティングや個別指導を実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア来訪などの行事に関しては、今後、収束に向け再開していきたい。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問医の医療の連携により、月2回の訪問診療の指導、その他、緊急時の対応も実施しており、関係性は良好。様々な相談を適切に受けている。	・提携医療機関の内科医をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を受けている。歯科は、希望者が必要に応じて訪問診療を受けている。 ・専門医への通院には、家族が付き添い、受診結果は家族から聞き申し送りノートで共有している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師への相談行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の対応については、サマリーの作成、提出を行っている。また、入院中もご家族や、入院先への連絡を行い、退院時の対応についても迅速に対応できるようにしている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居時、救急搬送に関する確認書をご提出いただいている。週末期など、ご家族や入居者の希望に添える様、他職種との連携も踏まえ、対応できるように努めている。	・入居時に、重度化や終末期に向けた指針を本人と家族に説明している。 ・看取り方法を家族に説明し、終末期には、医師・看護師・家族と事業所が連携して、適切な支援に努める方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルにより、全職員が把握で着る様、周知徹底している。また、定期的に研修などを実施し、実践力に繋がるよう努めている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を実施。消防署への通達方法の実践、入居者の避難誘導の実施。地域防災訓練には不参加も、災害時の協力依頼は対応可。	・利用者も参加して年2回 夜間想定を含め、避難訓練を実施している。 ・備蓄品(水、缶詰、お粥・米、備品)を1週間分確保している。一覧表で賞味期限を管理し、定期的に確認、入れ替えを行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症という枠にとらわれず、一人の人間として、また、人生の先輩としての対応を心掛ける様、職員間で周知している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員は、職場30分研修で接遇やプライバシーに関する研修を受けて対応について学び、利用者の尊厳を損ねない対応や言葉かけを心がけている。</li> <li>・利用者への呼びかけは苗字に「さん」付けとしている。</li> </ul>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スピーチロックにならないよう、自己決定できるような、職員自体、余裕を持って対応でき、かつ重要と傾聴を行うよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	当施設の理念である。その人らしさを大切に、個々の個性を大切に支援するよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後や、起床時には、整容時間を設け、気に入った髪型になるようセットしている。また、女性に関しては、化粧水や美容液なども施設で管理し、使用して頂いている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当施設は食を大切に、希望によりメニューを変更したり、イベントや誕生日など、手作りのメニューや普段食べられないものを提供できるようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夕食は業者の食材、朝・昼食は職員が食材を調達し、職員が調理をしている。コロナ対応で外食は控えている。利用者の希望を聞きメニューに反映している。</li> <li>・利用者は調理、配膳、片付けを手伝っている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に食事量や、水分摂取量の個体差はあるが、水分量が少ない入居者には、ゼリーで対応したり、好みのもので代用したりしている。食事量の低下傾向の入居者には、訪問医と相談し高カロリー飲料などで対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、フロア内の洗面所で、口腔ケアを職員付き添いで対応している。食物残渣や磨き残しが無いよう口内の確認も行う。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄に関しては、ADLを下げないように対応を心掛けている。個々に排泄パターンの観察を行い、本人に見合ったアイテム使用や、対応方法を職員間で情報共有している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄チェック表で排泄パターンを把握し、時間や利用者の様子からトイレに誘導している。</li> <li>・夜間は定時に2回見まわり、必要に応じてトイレに誘導している。</li> <li>・入居時常時オムツから日中はリハビリパンツへの改善事例がある。</li> </ul>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来る限り薬剤に頼らず、繊維ものや寒天、乳製品などで自然排便を促せるよう対応している。それでも排便が促せないようであれば、個々に応じた下剤の投与も行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1人につき20分以上をかけ入浴を実施している。入浴拒否もあるが、その時は、清拭や足浴、手浴などで対応することもある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週2回の入浴を基本とし、希望により午前午後を問わず入浴できる。</li> <li>・入浴中、利用者は職員との会話を楽しんでいる。入浴剤、菖蒲湯、柚子湯を楽しんでいる。</li> <li>・利用者の状況に応じて機械浴としている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間はその人により、入眠時間を変えて対応している。眠くないのに入眠を促すことはせず、ゆっくり傾聴やホットミルクなどで対応し、その日の気分などに併せて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関しては、職員間で情報共有出来る様、薬の効能などは伝達している。変更、検討など薬効を個々に調べ、訪問医へ相談し助言を頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	細かい作業ができる入居者や、洗濯物などのたたむ行為を好む入居者、キッチンで食事の支度を好む入居者など、それぞれ役割を持っていただくように支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望時には、家族へ連絡し、日にち等計画し、同行して外出していただいている。外泊も同様である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天候が良い日は、職員が支援して事業所周辺を散歩して、気分転換をしている。</li> <li>・事業所内で、朝の体操やペダル漕ぎエクササイズなど、体を動かすように心がけている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍ではありますが、散歩と外気浴を今後も継続すると共に、可能な限り外出の楽しみを工夫し、事業所内の体操等を含めて、気分転換と体調維持をすることが期待されます。</li> </ul>
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員との買い物へ同行し、自分の好きなものを購入していただくという支援を行っている。支払いも同様、付き添いではあるが、自身でお支払いして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、電話で話したり、手紙を書いて職員がポストへ投函するなどの支援を行っている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	もともと設立が浅いため、共用空間や居室など綺麗で、光もダウンライトで調光できるタイプである。各フロアで季節ごとに、タペストリーや手作りの小物などを飾り季節を感じて頂けるよう工夫している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・温湿度は利用者の様子を見ながらエアコンを調節している。</li> <li>・七夕、正月など季節ごとの飾り付けをして季節感を採り入れている。</li> <li>・リビングの掃除に可能な利用者が参加し、清潔を維持している。</li> </ul>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部分は、テーブルを全員で囲うように席を配置している。移動も自身で行えるようスペースを確保している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に事前に家族へなじみのものや、普段使いのものを持参下さるようお願いし、入居時に持参頂いている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベッド、クローゼット等は、事業所備え付けで、利用者は位牌や机、椅子、TV等を持ち込んで、居心地よい居室にしている。</li> <li>・居室の掃除に可能な利用者が参加し、清潔を維持している。</li> </ul>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれ、出来ることを理解し、個々に見合った生活が送れるよう支援している。		

事業所名	ミモザ川崎稲田堤
ユニット名	モモ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人、施設の理念に基づき、毎月30分研修を施設内で実施している。社内総合研修主催の研修への参加と、年1回、全社内での事例ケア発表会を実施。他施設の取り組みや事例を確認でき、視野を広げる良い機会となっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により、感染症対策の継続のため、交流は避け、行事等は実施していない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍により、実施できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため、介護保険課、地域包括、自治体、民生委員、ご家族代表の方との会議は実施せず、ご利用者の状況、行事、事故報告、今後の予定の定時に関しては、書面にて情報共有を実施中。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	GH連絡会にて他ホームの管理者や職員と現在コロナ禍の為、リモートにて交流。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	職場30分研修を2か月に1度実施し、職員の身体拘束への認識と、情報共有を行っている。身体拘束ゼロを継続し、ご入居者に優しい環境作りを実施していく。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場30分研修の一つのテーマとして取り入れ、職員に周知徹底している。日頃からの入居者、ご家族、職員のストレスフリーに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	書物などで知識を得て、ご家族より相談を受けた場合、制度を利用できる状況にある。研修の機会も設け、日常生活自立支援事業、並びに、成年後見人制度などを学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、書面と入念な説明を設け、理解を得られるようにしている。当日だけでなく、後日随時質問ができるような状況を設け、解約時にも同様に努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や毎月の生活状況報告書への返信、半年に一度の家族会の開催（現在コロナ禍にて中止）外部評価によるアンケート、ケアプラン作成時のご利用者及びご家族の意向の聴取、また契約締結時には苦情相談機関の説明も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時スタッフ会議、個別面談、引継ぎの時間を利用し、職員の意見交換の機会を設け、コミュニケーションを図っている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則はいつでも閲覧できるようにしている。職員の希望はできる限り優先した勤務表作成を心掛けている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内総合研修所、GH連絡会、協力医療機関等主催の研修の情報を提供し参加を促している。また、エルダー社員制度により、新入社員のOJTを実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH連絡会にて他ホームの管理者や職員と現在コロナ禍の為、リモートにて交流。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に他施設や、支援事業者より、アナムネを収集、その後、実際にご本人にお会いし、昔の話などを交えながら共通の話題を探し、不安要素を取り除けるよう配慮行う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前より、コミュニケーションが図れるよう出来る限り、ご同行頂き、モニタリングを実施。困りごとなどの傾聴ができる様、穏やかな対応を心掛ける。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設で出来ること、家族、入居者が望むことを加味し、最善のサービスが提供できるよう検討、説明、話し合い、相談、助言等実施していく。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	GHという施設を最大限に生かし、入居者同士が支えあい、共同で暮らすことの意味を考え、職員間で情報共有し家族への理解も得る。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者と家族との絆を保ちながら、職員が間に介入することで、両方の意見を傾聴しながら、良い関係を築いていく。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	徐々に面会の制限を緩和している状況であるが、まだまだ、以前の様な状況ではない。毎月写真を送付、施設での様子を併せてお伝えしている。リモートは実施していないため、玄関での物品の受け渡しなどで対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアで過ごす際は、9人まとまってテーブルを囲うように座って食事をとって頂いている。行事、アクティビティ、誕生会なども全員で行動している。個々に問題がある入居者に関しては、居室変更や転棟なども検討している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の現在の状況を電話や手紙などで、状況の聞き取りを行っている。また、他施設での、困りごとの相談援助や、入院時の面会なども実施している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	決して無理強いせず、希望に添える様、生活環境やこれまでの生きてきた思いなどを考慮した対応を心掛けている。コミュニケーションが図れることにより関係性が良好となり、入居者の把握が可能となる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントだけに捕らわれず、ご家族とのコミュニケーションの一環として聞き取りを行ったり、前施設に問い合わせることもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に状態の把握を行い、全員が同じことを実施するのではなく、本人に見合った対応を職員間で検討、共有し、穏やかに生活できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	随時サービス担当者会議を実施し、今後の課題と今行うべきサービスの検討、意見交換を他職種を交え実施し、介護計画に反映させている。出来る限り、オリジナリティ溢れた介護計画を作成できるように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿ったケアを実施し、チェックシートを用いて、介護計画との比較を行っている。日々の暮らし以外に、気づきや、必要べき項目など個人記録に漏れなく記載し、職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に合わせた対応ができる様、緊急時の対応など、随時ミーティングや個別指導を実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア来訪などの行事に関しては、今後、収束に向け再開していきたい。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問医の医療の連携により、月2回の訪問診療の指導、その他、緊急時の対応も実施しており、関係性は良好。様々な相談を適切に受けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師への相談行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の対応については、サマリーの作成、提出を行っている。また、入院中もご家族や、入院先への連絡を行い、退院時の対応についても迅速に対応できるようにしている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居時、救急搬送に関する確認書をご提出いただいている。週末期など、ご家族や入居者の希望に添える様、他職種との連携も踏まえ、対応できるように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルにより、全職員が把握で着る様、周知徹底している。また、定期的に研修などを実施し、実践力に繋がるよう努めている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を実施。消防署への通達方法の実践、入居者の避難誘導の実施。地域防災訓練には不参加も、災害時の協力依頼は対応可。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症という枠にとらわれず、一人の人間として、また、人生の先輩としての対応を心掛ける様、職員間で周知している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スピーチロックにならないよう、自己決定できるような、職員自体、余裕を持って対応でき、かつ重要と傾聴を行うよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	当施設の理念である。その人らしさを大切に、個々の個性を大切に支援するよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後や、起床時には、整容時間を設け、気に入った髪型になるようセットしている。また、女性に関しては、化粧水や美容液なども施設で管理し、使用して頂いている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当施設は食を大切に、希望によりメニューを変更したり、イベントや誕生日など、手作りのメニューや普段食べられないものを提供できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に食事量や、水分摂取量の個体差はあるが、水分量が少ない入居者には、ゼリーで対応したり、好みのもので代用したりしている。食事量の低下傾向の入居者には、訪問医と相談し高カロリー飲料などで対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、フロア内の洗面所で、口腔ケアを職員付き添いで対応している。食物残渣や磨き残しが無いよう口内の確認も行う。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄に関しては、ADLを下げないように対応を心掛けている。個々に排泄パターンの観察を行い、本人に見合ったアイテム使用や、対応方法を職員間で情報共有している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来る限り薬剤に頼らず、繊維ものや寒天、乳製品などで自然排便を促せるよう対応している。それでも排便が促せないようであれば、個々に応じた下剤の投与も行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1人につき20分以上をかけ入浴を実施している。入浴拒否もあるが、その時は、清拭や足浴、手浴などで対応することもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間はその人により、入眠時間を変えて対応している。眠くないのに入眠を促すことはせず、ゆっくり傾聴やホットミルクなどで対応し、その日の気分などに併せて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関しては、職員間で情報共有出来る様、薬の効能などは伝達している。変更、検討など薬効を個々に調べ、訪問医へ相談し助言を頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	細かい作業ができる入居者や、洗濯物などのたたむ行為を好む入居者、キッチンで食事の支度を好む入居者など、それぞれ役割を持っていただくように支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望時には、家族へ連絡し、日にち等計画し、同行して外出していただいている。外泊も同様である。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員との買い物へ同行し、自分の好きなものを購入していただくという支援を行っている。支払いも同様、付き添いではあるが、自身でお支払いして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、電話で話したり、手紙を書いて職員がポストへ投函するなどの支援を行っている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	もともと設立が浅いため、共用空間や居室など綺麗で、光もダウンライトで調光できるタイプである。各フロアで季節ごとに、タペストリーや手作りの小物などを飾り季節を感じて頂けるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部分は、テーブルを全員で囲うように席を配置している。移動も自身で行えるようスペースを確保している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に事前に家族へなじみのものや、普段使いのものを持参下さるようお伝えし、入居時に持参頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれ、出来ることを理解し、個々に見合った生活が送れるよう支援している。		

事業所名	稲田堤GH
ユニット名	スマイレ

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人、施設の理念に基づき、毎月30分研修を施設内で実施している。社内総合研修主催の研修への参加と、年1回、全社内での事例ケア発表会を実施。他施設の取り組みや事例を確認でき、視野を広げる良い機会となっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により、感染症対策の継続のため、交流は避け、行事等は実施していない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍により、実施できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため、介護保険課、地域包括、自治体、民生委員、ご家族代表の方との会議は実施せず、ご利用者の状況、行事、事故報告、今後の予定の定時に関しては、書面にて情報共有を実施中。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	GH連絡会にて他ホームの管理者や職員と現在コロナ禍の為、リモートにて交流。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	職場30分研修を2か月に1度実施し、職員の身体拘束への認識と、情報共有を行っている。身体拘束ゼロを継続し、ご入居者に優しい環境作りを実施していく。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場30分研修の一つのテーマとして取り入れ、職員に周知徹底している。日頃からの入居者、ご家族、職員のストレスフリーに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	書物などで知識を得て、ご家族より相談を受けた場合、制度を利用できる状況にある。研修の機会も設け、日常生活自立支援事業、並びに、成年後見人制度などを学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、書面と入念な説明を設け、理解を得られるようにしている。当日だけでなく、後日随時質問ができるような状況を設け、解約時にも同様に努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や毎月の生活状況報告書への返信、半年に一度の家族会の開催（現在コロナ禍にて中止）外部評価によるアンケート、ケアプラン作成時のご利用者及びご家族の意向の聴取、また契約締結時には苦情相談機関の説明も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時スタッフ会議、個別面談、引継ぎの時間を利用し、職員の意見交換の機会を設け、コミュニケーションを図っている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則はいつでも閲覧できるようにしている。職員の希望はできる限り優先した勤務表作成を心掛けている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内総合研修所、GH連絡会、協力医療機関等主催の研修の情報を提供し参加を促している。また、エルダー社員制度により、新入社員のOJTを実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH連絡会にて他ホームの管理者や職員と現在コロナ禍の為、リモートにて交流。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に他施設や、支援事業者より、アナムネを収集、その後、実際にご本人にお会いし、昔の話などを交えながら共通の話題を探し、不安要素を取り除けるよう配慮行う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前より、コミュニケーションが図れるよう出来る限り、ご同行頂き、モニタリングを実施。困りごとなどの傾聴ができる様、穏やかな対応を心掛ける。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設で出来ること、家族、入居者が望むことを加味し、最善のサービスが提供できるよう検討、説明、話し合い、相談、助言等実施していく。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	GHという施設を最大限に生かし、入居者同士が支えあい、共同で暮らすことの意味を考え、職員間で情報共有し家族への理解も得る。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者と家族との絆を保ちながら、職員が間に介入することで、両方の意見を傾聴しながら、良い関係を築いていく。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	徐々に面会の制限を緩和している状況であるが、まだまだ、以前の様な状況ではない。毎月写真を送付、施設での様子を併せてお伝えしている。リモートは実施していないため、玄関での物品の受け渡しなどで対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアで過ごす際は、9人まとまってテーブルを囲うように座って食事をとって頂いている。行事、アクティビティ、誕生会なども全員で行動している。個々に問題がある入居者に関しては、居室変更や転棟なども検討している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の現在の状況を電話や手紙などで、状況の聞き取りを行っている。また、他施設での、困りごとの相談援助や、入院時の面会なども実施している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	決して無理強いせず、希望に添える様、生活環境やこれまでの生きてきた思いなどを考慮した対応を心掛けている。コミュニケーションが図れることにより関係性が良好となり、入居者の把握が可能となる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントだけに捕らわれず、ご家族とのコミュニケーションの一環として聞き取りを行ったり、前施設に問い合わせることもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に状態の把握を行い、全員が同じことを実施するのではなく、本人に見合った対応を職員間で検討、共有し、穏やかに生活できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	随時サービス担当者会議を実施し、今後の課題と今行うべきサービスの検討、意見交換を他職種を交え実施し、介護計画に反映させている。出来る限り、オリジナリティ溢れた介護計画を作成できるように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿ったケアを実施し、チェックシートを用いて、介護計画との比較を行っている。日々の暮らし以外に、気づきや、必要べき項目など個人記録に漏れなく記載し、職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に合わせた対応ができる様、緊急時の対応など、随時ミーティングや個別指導を実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア来訪などの行事に関しては、今後、収束に向け再開していきたい。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問医の医療の連携により、月2回の訪問診療の指導、その他、緊急時の対応も実施しており、関係性は良好。様々な相談を適切に受けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師への相談行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の対応については、サマリーの作成、提出を行っている。また、入院中もご家族や、入院先への連絡を行い、退院時の対応についても迅速に対応できるようにしている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居時、救急搬送に関する確認書をご提出いただいている。週末期など、ご家族や入居者の希望に添える様、他職種との連携も踏まえ、対応できるように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルにより、全職員が把握で着る様、周知徹底している。また、定期的に研修などを実施し、実践力に繋がるよう努めている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を実施。消防署への通達方法の実践、入居者の避難誘導の実施。地域防災訓練には不参加も、災害時の協力依頼は対応可。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症という枠にとらわれず、一人の人間として、また、人生の先輩としての対応を心掛ける様、職員間で周知している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スピーチロックにならないよう、自己決定できるような、職員自体、余裕を持って対応でき、かつ重要と傾聴を行うよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	当施設の理念である。その人らしさを大切に、個々の個性を大切に支援するよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後や、起床時には、整容時間を設け、気に入った髪型になるようセットしている。また、女性に関しては、化粧水や美容液なども施設で管理し、使用して頂いている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当施設は食を大切に、希望によりメニューを変更したり、イベントや誕生日など、手作りのメニューや普段食べられないものを提供できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に食事量や、水分摂取量の個体差はあるが、水分量が少ない入居者には、ゼリーで対応したり、好みのもので代用したりしている。食事量の低下傾向の入居者には、訪問医と相談し高カロリー飲料などで対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、フロア内の洗面所で、口腔ケアを職員付き添いで対応している。食物残渣や磨き残しが無いよう口内の確認も行う。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄に関しては、ADLを下げないように対応を心掛けている。個々に排泄パターンの観察を行い、本人に見合ったアイテム使用や、対応方法を職員間で情報共有している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来る限り薬剤に頼らず、繊維ものや寒天、乳製品などで自然排便を促せるよう対応している。それでも排便が促せないようであれば、個々に応じた下剤の投与も行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1人につき20分以上をかけ入浴を実施している。入浴拒否もあるが、その時は、清拭や足浴、手浴などで対応することもある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間はその人により、入眠時間を変えて対応している。眠くないのに入眠を促すことはせず、ゆっくり傾聴やホットミルクなどで対応し、その日の気分などに併せて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関しては、職員間で情報共有出来る様、薬の効能などは伝達している。変更、検討など薬効を個々に調べ、訪問医へ相談し助言を頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	細かい作業ができる入居者や、洗濯物などのたたむ行為を好む入居者、キッチンで食事の支度を好む入居者など、それぞれ役割を持っていただくように支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望時には、家族へ連絡し、日にち等計画し、同行して外出していただいている。外泊も同様である。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員との買い物へ同行し、自分の好きなものを購入していただくという支援を行っている。支払いも同様、付き添いではあるが、自身でお支払いして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、電話で話したり、手紙を書いて職員がポストへ投函するなどの支援を行っている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	もともと設立が浅いため、共用空間や居室など綺麗で、光もダウンライトで調光できるタイプである。各フロアで季節ごとに、タペストリーや手作りの小物などを飾り季節を感じて頂けるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部分は、テーブルを全員で囲うように席を配置している。移動も自身で行えるようスペースを確保している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に事前に家族へなじみのものや、普段使いのものを持参下さるようお伝えし、入居時に持参頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれ、出来ることを理解し、個々に見合った生活が送れるよう支援している。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 ミモザ川崎稲田堤

作成日 令和 5年 3月 2日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	事業所と地域の付き合い	地域イベントへの参加	自治会にイベントの確認	1年
2	3	地域貢献	地域高齢者の閉じこもりの予防への協力	地域交流室を茶話会の活動の場として提供	1年
3	3	運営推進会議を活かした取り組み	コロナ過で開催出来ていないので終息後、開催し情報、報告を行い今後のサービス向上に活かしていく	開催予定日の計画	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。